**検討の観点と内容の特色**

『高等学校 公共　これからの社会について考える』（104数研　公共/709）

（１）内容

・本文や「クローズアップ」では，人間と社会の在り方についての基本的で幅広い知識・教養，ならびに情報を適切かつ効果的に取り扱う技能を身に付けられるように配慮されている。

・「Thinking Time」では，学習した知識・教養・技能を基礎として，学習者が人間としての在り方生き方についてみずから考えようとし，また社会の形成に主体的に寄与しようとする態度を育成できるよう，配慮されている。

・自国や国際社会における現代のさまざまな課題に関し，学習者がみずから問いを立てて多面的・多角的に考察し，自主的・自律的に選択・判断できるよう，多様な観点の題材や資料が掲載されている。

（２）構成・分量

・公共の学習に必要な倫理，法，政治，経済の各分野が，バランスの良い分量で「巻頭特集」と5つの章に分けて構成されている。

・各章は「Introduction」「本文ページ」「クローズアップ」「Thinking Time」から構成され，高校生にとって身近な話題から導入し，基本的な知識ややや深く掘り下げた理論・技能を学び，それらを活用して合意形成や社会参画を視野に入れつつ考え議論する力を養えるよう工夫されている。

・巻末には「課題探究編」が設けられ，生徒が自ら課題を発見し解決する課題探究活動を行うための配慮がなされている。

（３）表記・表現及び使用上の便宜

・カラーユニバーサルデザインに配慮され，見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォント（UD フォント）が使用されている。

・一般的な教養を高められるよう，本文中の太字や読みにくい漢字に積極的にルビがつけられている。

・本文重要語句のうち，中学校公民で学習した最重要用語に赤下線が引かれており，中学校公民とのつながりが重視されている。

・随所に「二次元コード」が掲載され，関連するサイトや動画へのリンク，学習理解度を確認する「確認テスト」のページにアクセスできるようになっている。

（４）その他

・一般的な教養を高め，専門的知識を習得する一助として，p.6～9に「公共のとびら」「ニュースの記録」が設けられている。

・p.10～11「生活のなかの公共」では，「公共的な空間」として広場，空港，駅，図書館，コンビニエンスストアが例示されており，身近な例から「公共」とは何かを考えさせることができるよう工夫されている。

・学習指導要領「内容A（1）」にあたる部分は，青年期や思想・宗教など高校生になって初めて習う内容であるため，「巻頭特集」として，身近な事例を交えて取り組めるように工夫されている。

・巻末資料として日本国憲法をはじめ，民法や刑法など社会での暮らしに関連する法令が掲載されている。